

## 当院の障がい者病棟について

—透析療法を中心とした慢性期医療の中での役割—

当院は、「障害者施設等一般病棟」の届出をしており、一般障がい者病棟として透析療法を中心とした慢性期医療を担う 147 床の病院です。3つの病棟全てが障がい者病棟であり、長期的な医療管理と日常生活の支援を必要とする患者さんが多く入院されています。

今回、障がい者病棟とはこういった病棟なのかを紹介したいと思います。

障がい者病棟とは、重度の意識障害や重度の肢体不自由（身体障がい）、神経難病などの患者さんが7割以上入院している必要がある病棟です。急性期病棟は短期間の治療・回復が目的ですが、障がい者病棟は医療依存度が高い方の中長期的な療養を目的としています。そのため日常生活に多くの介助を必要とする方が入院されています。患者さんの多くは慢性疾患を抱えながら長期療養を必要としているため、医療的ケアを中心に、生活の質（QOL）も大切にされた看護と介護が求められます。特に当院では、透析療法を受けながら療養されている患者さんが4割程度入院しており、病棟と透析室が連携しながら安全で継続的な治療を行っています。患者さんの病状や状態はさまざまであり、医師、看護師、介護士、透析スタッフ、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養士など多職種が協力しながら、患者さん一人ひとりに合わせた支援を行っています。

また、一般入院の患者さんも3割弱ですが入院が可能です。当院では、肺炎や心不全の悪化、糖尿病の血糖コントロール目的、急性期病院での治療が終了し、リハビリ目的での自宅（施設）退院を目指す患者さんが入院されています。

今年度の診療報酬改定の概要が公表され、重度の肢体不自由の場合の「廃用症候群」の評価の見直しや「身体的拘束の最小化」の厳格な対応が取り上げられていました。医療チームとして適切な病院運営をするために、これからも多職種で連携しながら、患者さん一人ひとりに寄り添った医療とケアを提供し、安心して療養できる環境づくりに努めていきたいと考えています。

また、長期入院となる患者さんにとって、病棟は生活の場でもあります。そのため、日々のケアに加えて、四季を感じ取れるような取り組み、少しでも穏やかに過ごしていただける環境づくりを大切にしていきます。患者さんの笑顔や日々の小さな変化に気づくことが、私たち医療スタッフの大きな励みとなっています。

障がい者病棟の主な対象となる疾患・状態

区分	主な疾患・状態
重度の意識障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳梗塞、脳出血後の麻痺や高次脳機能障害</li> <li>JCS II -30 以上、GCS 8 点以下</li> </ul>
重度の肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脊髄損傷などによる重度の身体障害</li> <li>・四肢麻痺、重度の運動障害など</li> <li>（但し脳梗塞後遺症や認知症によるものは除く）</li> <li>日常生活自立度 III 以上</li> </ul>
神経難病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋ジストロフィー</li> <li>・重症筋無力症</li> <li>・筋萎縮性側索硬化症 (ALS)</li> <li>・多発性硬化症</li> <li>・シャイ・ドレイガー症候群</li> <li>・亜急性硬化性全脳炎</li> <li>・パーキンソン病（パーキンソン症候群は非該当）、</li> <li>・多発性硬化症</li> <li>・スモン</li> <li>・脊髄小脳変性症</li> <li>・ハンチントン舞踏病</li> <li>・ヤコブ病</li> </ul>
慢性疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工透析療法をしている</li> <li>・人工呼吸器を装着している</li> <li>・頻回な痰の吸引が必要（1日8回以上）</li> <li>・何らかのドレナージをしている</li> <li>・リハビリを行っている（入院から180日まで）</li> </ul>